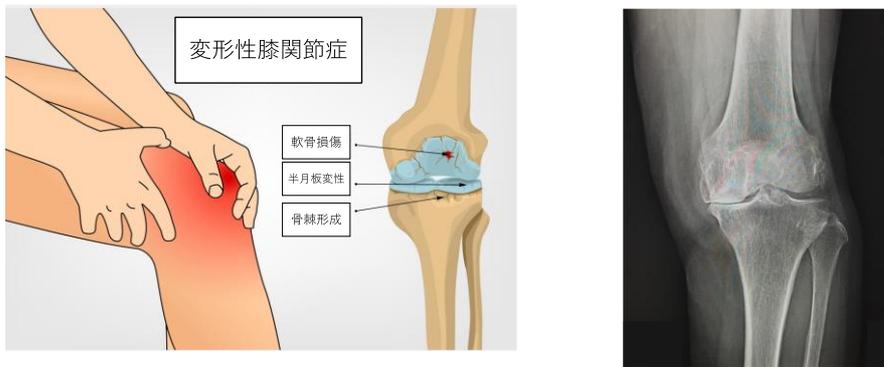


変形性膝関節症とは？

膝の軟骨が少しずつすり減り、骨が変形してくる疾患です。有病者数は約 2530 万人、有症状患者数は約 800 万人と推定されています。男女比は 1 : 4 で女性に多く、高齢になるほど罹患率は上昇します。原因としては職業やスポーツなどによる膝の酷使、肥満、半月板損傷や靭帯損に伴うものなど様々です。初期には動き出し、立ち上がりなどの痛みから始まり、進行するにつれて歩行中にも痛みが出現し歩行が困難になっていきます。また、正座が困難になり、膝も完全に伸びなくなっていきます。



治療

基本的な治療は保存療法になります。運動療法についての指導、肥満があれば減量などの生活指導、痛みの激しい時期は鎮痛剤や外用剤や関節内注射を行います。また、必要に応じて装具療法を行います。

これらの保存療法を行っても改善がなく、日常生活に支障をきたすようであれば手術療法を検討します。

実際の人工膝関節

手術前

安全な手術を行うために全身の精密検査（血液検査、呼吸機能検査、心臓超音波など）を行い全身の状態を把握します。必要があれば内科ドクターと相談をしながら入院の準備を行います。

レントゲン、CT 撮影を行い、3D テンプレティングシステムでの正確な術前設計を行います。



3D テンプレティングシステム

実際の手術

術後の早期回復のために MIS（最小侵襲手術）による最も筋肉を温存する手術法を行っています。

カクテル療法という鎮痛法を採用しており、手術で傷を閉じる前に膝全体に数種類の鎮痛薬を注射することにより術後の痛みを最小限に抑えます。カクテル療法により手術当日の痛みを感じない人もまれではありません。傷は吸収される糸で皮膚の下で縫合する皮下縫合を行っているため術後の抜糸はありません。



手術後の経過

入院中の痛みを最小限に抑えるために飲み薬の鎮痛剤の組み合わせを翌朝から開始します。また、手術翌日からリハビリが開始されます。平均の入院期間は2～3週間となりますが、長くりハビリを行いたい場合などは当法人のリハビリ病院で長期にリハビリを行うことも可能なため相談しながら決定します。